



## アメリカ

### ポータブル発電機に安全基準を

● CRホームページ

<https://www.consumerreports.org/generators/house-bill-to-prevent-generator-related-deaths-injuries-portable-generator-safety-standard-act/>  
<https://www.consumerreports.org/portable-generators/how-consumer-reports-tests-generators-for-safety/>

アメリカで、ポータブル発電機の強制安全基準法案が下院に提出された。これは、ポータブル発電機の製造販売に際し ①CO(一酸化炭素)排出量上限規定 ②使用中の環境内に一定以上のCO蓄積で自動停止する安全遮断装置の義務化 ③排気方向を明示するラベルの義務化、をCPSC(消費者製品安全委員会)が1年以内に制定するよう求めるもの。ガソリンエンジンで発電するポータブル発電機によるCO中毒で2005~2019年に1,000人近くが死亡、15,400人以上が救急搬送されたという。2020年の大きな台風の際もポータブル発電機による犠牲者が多く出た。停電時などに活躍するポータブル発電機だが、誤ってガレージなど閉鎖空間で使用しがちだ。COは無色無臭のため、気づかないうちに意識を失い死に至る。排気方向が悪いと換気しても事故が生じる。

現在、PGMA(製造業者協会)とUL(安全機関)による2つの業界自主基準があり、いずれにも安全遮断装置の要件はあるがCO排出量の上限などは異なる。CPSCは両基準の死傷事故抑止効果を精査中。なお今のところ製造者がこれら基準に従う義務はない。またCPSCは10年以上前から強制安全基準のメリットを評価しており、2016年にはCO排出量規制案を提示したが、いまだ制定に至らない。

ポータブル発電機の安全性向上を訴えてきたCR(コンシューマーレポート)は、単一の強力な安全基準が不可欠だとして今回の法案が速やかな制定を促すことを期待している。また、厳格な商品テストを行い、安全遮断装置内蔵の銘柄だけを推奨。さらに使用時は居住スペースから最低6m離し、排気方向も部屋の反対側にしよう強く助言している。



## オーストラリア

### 学校銀行プログラムを廃止

● ヴィクトリア州首相府ホームページ <https://www.premier.vic.gov.au/school-banking-programs-be-banned>

● CHOICEホームページ <https://us4.campaign-archive.com/?u=270103a13e38b9f6643b82a8e&id=e1be3d8a43>

オーストラリアのヴィクトリア州(州都メルボルン)政府はこのほど、銀行などがスポンサーとなっている学校銀行プログラムを廃止し、その代わりに2021年の新学期から学校主導の質の高いプログラムを導入すると発表した。

学校銀行プログラムとは、小中学生などを対象にお金や経済のしくみ、節約や貯金の大切さなどの授業を銀行などが提供するもので、全国の小中学校のおよそ3分の2が参加しているという。ある大手銀行が90年近くも継続している有名なプログラムには年間およそ35万人の生徒が参加している。参加校には約15,000円相当が支払われるほか、生徒が同銀行で開設した口座数などに応じた金額が支払われる。CHOICE(オーストラリア消費者協会)の調査では生徒の46%が同銀行で人生初の銀行口座を

開設し、その3分の1は成人後も保有しているという。

同プログラムの教育で若者の金融リテラシーが向上し長期的な貯蓄習慣が定着したという証拠はなく、逆に低年齢で銀行への信頼を築くための景品やクレジットカードへの勧誘などが懸念されていた。

新学期から導入される宣伝広告を廃した良質な教材は金融専門家との協議で開発され、税金のしくみや詐欺を見分け避ける方法など、学生が必要とする実用的な情報や役立つヒントに焦点を当てたもので、新入生から10年生までの数学、経済、ビジネスなどの科目で教えられる。学生は財務上の意思決定や消費者の権利と責任についても学ぶことになる。

CHOICEは今回の決定を歓迎し、他州もこれに従い、全国に広がるよう期待するとしている。

## フランス

## もっと知ってほしいブタクサの脅威

● Anses ホームページ

<https://www.anses.fr/fr/content/l%E2%80%99ambrosie-en-france-co%C3%BBts-des-impacts-sanitaires-et-pistes-d%E2%80%99actions>

● UFC-Que Choisir ホームページ

<https://www.quechoisir.org/actualite-ambrosie-un-fleau-meconnu-n86043/>

北アメリカ原産のブタクサは、夏から秋にかけて花粉を飛散させることで、各地に深刻なアレルギー被害をもたらしている。ヨーロッパでは、ハンガリーや北イタリアが主要な生育地として知られる。

Anses(フランス食品環境労働衛生安全庁)によると、フランスには第2次世界大戦中、人や物資の移動とともに持ち込まれたという。現在、南東部のローヌ・アルプ地方を中心に分布が拡大している一方で、北部のように、ブタクサがほとんど確認されていない地域もあるという。

しかし、ブタクサの繁殖力は非常に強いことから、まだ被害が少ない地域も併せて、早急な対策が必要であると同庁は強調する。このままでは、ブタクサ花粉アレルギーによる医療費はますます増大し、生活の質や生産性も著しく低下すると予測している。

建築業界や農業界の協力も欠かせないという。それというのも、ブタクサの種子は、農作物の刈り取り時に、収穫物や農業用機械に紛れ込んだり、建設用土に混入しやすいため、人間の意図しないところへ運ばれ、離れた場所で、知らないうちに発芽するおそれがあるからである。EUのRASFF(食品・飼料に関する緊急警報システム)にも、飼料用穀物にブタクサの種子が混入していたという通報が加盟国から度々なされている。

ブタクサの蔓延を防ぐために、個人が貢献できる行動を紹介する専用ポータルサイトもある。自宅の庭や道路、公園等でブタクサを発見したとき、専用フォームや電話を使って通報すると、居住自治体が根こそぎ除去するなど、対策が取られるしくみだという。

## ドイツ

## 寝る前のひとときは紙の本と静かな音楽で

● 商品テスト財団ホームページ

<https://www.test.de/Schlafstoerungen-Zehn-Schlafkiller-und-wie-man-sie-ueberlistet-4926137-0/>

● ヘッセン州社会・統合省ホームページ

<https://www.familienkarte.hessen.de/verbrauchertipps/Anti-Energy-Drinks>

新型コロナ感染症拡大の影響により、ドイツでも不眠を訴える人が増加している。そこで、商品テスト財団は、よく眠るためのヒントを紹介している。それによると、就寝前にはブルーライトを発するスマホ、パソコンの使用を控えることが重要だとする。その一方で、ほのかな明かりの下で、ベッドに入ってから紙の本を読むことは、睡眠モードに入りやすいのでお勧めだという。ただし、あれこれと考え込ませる内容の読み物は禁物である。

また、パートナーのいびき、寝室内を動き回る猫、屋外の騒音や街灯の光など、眠りを妨げる要因は除去すべきだと助言する。ただし、遮光カーテン等で外部の光を完全に遮断すると、朝の光を感知できず、起床が困難になると注意を促す。そして、平日も週末もおおむね同時刻に起床・就寝すること、昼寝は

30分以内にとどめることが大切だという。

なお、睡眠をサポートするとうたう食品(液体、粉末、粒状)計13商品をテストしたのが、ヘッセン消費者センターである。有効成分として、多くの商品にカノコソウ、ホップ、レモンバームなど旧知の植物性原料が使われていたほか、アミノ酸やビタミンB6を含む商品もあった。しかし、ほとんどの植物性原料の効果は未解明とされており、植物性成分だからといって無害とは限らないと指摘した。また、医薬品との相互作用の可能性、ビタミンB6の過剰摂取による健康被害にも注意を促す。

同センターは寝る前のひとときの過ごし方として、インターネットをオフにして、静かな音楽の鑑賞、読書など各自に合った行動をとること、ハーブティーかホットミルクを飲むことを勧めている。